

坂出にゆかりのある古の偉人

坂出市にゆかりがあり、歴史に残る大事業を成し遂げ、現代の私たちの心の中に今もなお生き続ける偉人である崇徳上皇、久米通賢、西行の3人を紹介します。坂出市にこの偉人たちの軌跡と遭遇できる場所があります。その3人にちなんだ郷土資料を紹介します。

1冊目は、鎌田共済会郷土博物館/編『崇徳上皇御遺跡案内』です。

崇徳上皇は1119年5月28日、京都三条烏丸亭で鳥羽上皇の第一皇子としてご誕生され6月19日に親王となります。鳥羽上皇の死後、弟の後白河天皇と対立し天皇方の勝利となり即刻、讃岐の地へ流刑となります。その地が讃岐国阿郡松山の津で現在の坂出市大屋富町あたりといわれています。崇徳上皇は都へ帰ることを夢みて多くの句を残し悲劇の上皇として怨霊伝説があります。その遺跡写真と説明文も記載されています。本書は大正14年8月に『聖跡案内』と題して崇徳上皇聖跡敬仰会から初版を出し4版となり、久しく絶版となっていたところ装丁を新たに再販されたものです。

2冊目は、久米通賢研究会/編『もつとしりたい！久米通賢』です。

久米通賢は1780年香川県大内町馬宿村で生まれました。通称は栄左衛門、実名は通賢です。子どもの頃から天文学、地理学に興味を持ち18歳で当時の大阪で天文学者として名高い間重富氏に暦学、数学を学びます。その後、幕府の命で日本全土の地図作成に携わっていた伊能忠敬が讃岐に来た折に通賢に協力を要請しました。通賢は独自に工夫して作った測量機器を使い精度の高い讃岐の地図をすでに製作していました。これは讃岐最古の地図となります。また、通賢は坂出の塩田開発に力を注ぎました。それは「久米式塩田」と呼ばれ、のちの塩田開発のモデルとなります。久米通賢の偉業やゆかりの地、通賢が残した資料や道具も紹介されています。久米通賢の全体像を初めて明らかにされた1928年岡田唯吉氏により『讃岐の偉人 久米栄左衛門翁』が発行されてから研究会が専門研究を進め、理解しやすい文章に編集されています。

3冊目は、横井 寛/著『西行と崇徳上皇・その後の静御前』です。

崇徳上皇が讃岐で没して3年後の1167年、西行は崇徳上皇の御陵の墓前に詣でます。そこから西行は坂出との深いかわりかかわりが生まれてきます。資料にはそこに至るまでの崇徳上皇の生い立ちと皇位継承問題、讃岐配流での生活や西行の出家、西行が残したとされる優れた句と遺跡やそれらの解説など二人に関する事柄などが興味深く紹介されています。また、静御前はその母の磯禅師が香川県大川郡大内町の豪農の娘で舞に優れ、後白河上皇に密かに愛され静御前を産んだとされています。本書はそれらについて少し触れられています。

郷土資料から坂出の各遺跡を巡り、古の歴史に残る偉人を再確認することができます。

郷土資料コーナーには今回紹介した3人の他に菅原道真、柿本人麻呂、理源大使を加えた『6人の古のキーパーソンコーナー』を常設しています。郷土資料は次世代に残す資料として大切に保存しています。

また、郷土資料の収集のため寄贈を受付しています。ご協力をお願いします。

ご来館されたときには、ぜひ郷土資料コーナーもご覧ください。